



県学校体育功労賞を受賞して

あさぎり町立あさぎり中学校 校長 堤 俊介

38年間の教職生活に一つの節目を迎えることになりました。世界的にも国内でも、そして地元人吉球磨でも、大変困難な状況の中、教職人生の集大成の年をこのような形で迎えることを想像もしていませんでした。しかし、何事もないかのように、花は咲き、新たな春を迎えようとしています。

このたびは、荣誉ある令和2年度熊本県学校体育功労賞を受賞させていただき、本来なら、これまでお世話になった皆様お一人お一人に感謝の意を伝えるべきところではありますが、この場をお借りし、関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。この賞を賜るにあたり、どれだけ中学校体育の発展に貢献できたのかと自問しているところではありますが、恐縮ながら、これまで中体連で共に頑張り、支えていただいた仲間達を代表しての受賞であると思っています。

振り返りますと、昭和58年に人吉一中からスタートした教職人生でしたが、この職に就く分岐点は人吉高校時代の3人の体育の先生方との出会いにありました。一人は剣道部顧問の松岡寛治先生、二人目が3年時担任だった故吉井潤一先生、そして、もうお一人が大学の先輩でもある元体育保健課長の八十田宏先生です。人間性も含め、厳しくも温かいご指導と先生方の一言一言が心にしみ、当初教師になることはまったく考えていなかった私にとって、この出会いは間違いなく人生を変える大きなインパクトとなりました。遅ればせながら3年の後半から、人の心を動かし、生徒の人生に大きな影響を与える教師、しかも体育の教師という道の選択を次第に考えるようになりました。

大学を卒業し、血気盛んだった若い頃は「部活動を通じた人間育成」という使命感に燃え、まさに剣道部の指導に明け暮れる毎日でした。今、大きな課題となっている働き方改革も何のその、家庭も顧みず、土日、正月返上で、時には自宅で合宿をしたり、各地への遠征など、子ども達や保護者にとってはいい迷惑で、今考えると独りよがりの指導ではなかったかと反省するばかりですが、個性豊かな先輩の先生方、子ども達、そして、多くの保護者や地域の方々に支えられながら、何物にも代え難い経験と学び多き日々でした。今でも教え子達が時々訪ねてきてくれることがせめてもの救いです。

中体連との関わりを特に意識したのは、教職5年目の昭和63年度の県中体連球磨人吉大会でした。開催地事務局の開会式担当事務局で働かせて頂いた時でした。当時県理事長の松本元会長、事務局の前川元会長と本部となった鮎里ホテルで連夜、杯を頂戴しながら中体連運営の難しさや存在意義等について教を請う貴重な体験をさせていただきました。その後、2度目の球磨人吉での県大会、上村中（現あさぎり中）スタート・フィニッシュの県駅伝大会、新型インフルエンザに翻弄された剣道の全国大会人吉大会、2度の剣道の九州大会、そして初めての芦北・水俣、球磨人吉のブロック大会等はじめ郡市副会長として3年、会長として3年、微力ながら関わらせていただく中で、時代とともに変化を求められる運営の難しさと中体連が担う大きな不易の役割の重要性を改めて認識しているところです。

今、5年前の熊本地震、そして現在未だ予測の難しい新型コロナウイルス感染症の影響や7月豪雨災害を経て、困難な時だからこそ、中学生はじめ皆にとっての中体連の存在の大きさを改めて実感しているところです。これから中体連を引き継ぎ盛り上げていただく後輩の先生方に、少しずつの改革を経ながらも、ますますの質的发展を託し、受賞にあたっての皆様へのお礼のご挨拶といたします。